菩提横手遺跡（ぼだいよこていせき）

秦野市№195

調査期間　2016年12月16日～2018年6月16日

所 在 地　秦野市菩提

時　　代　縄文

調査原因　中日本高速道路株式会社による新東名高速道路建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

遺跡位置　秦野市の北部、秦野盆地北縁の丹沢山地の麓に位置し、菩提横手遺跡は葛葉川の右岸に所在しています。

主な調査成果

竪穴住居から「大形中空土偶」が出土しました。大きさは高さ25㎝、幅12㎝（推定）を測る大形の土偶です。

※大型中空土偶（調査コラム参照）http://www.kaf.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/2018/07/doguu-3.pdf

出土したのは、縄文時代後期（約3,500年前）の竪穴住居の覆土（埋土）中で、発見された時、土偶は頭～胴部、腰部、脚部に分かれていました。

当時の住居は地面を掘り下げて床面を作り、さらに床面に柱を立てるための穴（柱穴）を掘って柱を立て屋根を支える構造になっていたものと考えられます。土偶が、住居跡の覆土中から出土したということは、住居が使われなくなって、住居の掘り込みが埋まりかけ、窪地状になったところに意図的に捨てられた（あるいは置かれたのか）もしくは、周辺にあったものが流れ込んだものと推定されます。